

国道108号古川東バイパスが全線開通しました

令和7年12月21日、古川地域で国道108号古川東バイパス開通式典を行いました。古川東バイパスは、古川地域鶴ヶ坪地区から稲葉地区までのバイパス事業で、市街中心部を迂回して国道108号と国道4号を結びます。国により平成2年から整備が進められ、段階的に開通してきましたが、総延長5.1キロメートルのうち、ついに最後の1.6キロメートルが完成し、全線開通を迎えました。

式典には、国や県、市の関係者をはじめ、地域住民などが出席し、長年待ち望まれていたバイパスの開通を喜び合いました。式典後には「通り初め」を行い、参加者は真新しい道路を走行しながら、新道がもたらす利便性を実感していました。

全線開通により、課題となっていた交通渋滞の緩和や安全性の向上、搬送時間の短縮による地域の救急医療体制の強化、地域産業と物流の効率化などが期待されます。本市は古くから交通の要衝

とされてきましたが、今回の開通はさらなる発展に向けた大きな一歩となりました。



▲テープカットで全線開通を祝いました



▲「通り初め」で地域の安全と発展を願いました

輝かしい新年の幕開けを多くの市民や関係団体と共に喜び合いました

1月5日、新春講演会および新年祝賀会を開催しました。

新春講演会では、東北大学名誉教授で一般社団法人おおさき産業推進機構の理事長を務める堀切川一男氏が、「実力よりも実現力、令和の新産業創出はおおさきから」と題して講演を行いました。堀切川氏は、大崎地域は企業同士のつながりが強いことに触れ、「この強固なネットワークを背景に、単に実行するだけではなく形にする『実現力』こそが重要である」と述べました。終始ユーモアあふれる講演は会場を沸かせ、大崎市の産業の創造やさらなる発展に向けた確かな指針を提示する内容に、参加者は熱心に耳を傾けていました。

また、昨年11月に行われた「第18回おおさき子どもサミット2025」に参加した児童を代表し、鹿島台小学校、鳴子小中学校(前期課程)、古川北小学校、古川第四小学校の皆さんが「語り合おう大崎市の今、夢、未来」をテーマに、まちづくりへの提案を発表し、子どもたちの夢が詰まった提案は、大崎の明るい未来を予感させました。

新年祝賀会には、国会議員、県・市議会議員、おおさき宝大使など、市内外から多くの関係者が参加しました。おおさき宝大使のジャズボーカリスト「MIKA」氏の情感豊かな歌声で華やかに幕を開け、参加者は新年のあいさつをかわしながら交流を深めました。



▲本市の産業の創造と発展について講演する堀切川氏



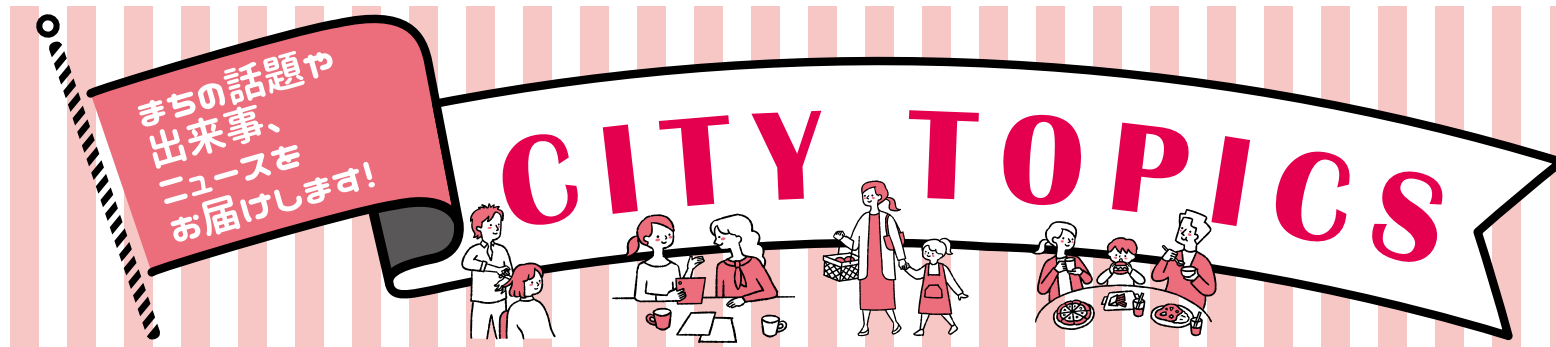
▲新年祝賀会の幕開けを彩った、ジャズボーカリストMIKA氏



▲大崎市の未来について発表した代表児童と伊藤市長(中央右)



▲参加者全員で大崎市のさらなる発展を願った鏡開き



■受賞団体と活動概要

大崎市古川まちづくり協議会	地域を先導するリーダーで構成され、設立20周年を迎える。地域課題の解決に尽力し、次世代の育成や持続可能なまちづくりの推進に貢献。
松山町酒米研究会	30年にわたり、(株)一ノ蔵をはじめとする関係機関と連携し、酒米産地の確立と良質米生産に尽力。先駆的な高付加価値米の生産に取り組み、地域農業の発展に寄与。
三本木と学校をつなぐ会	子どもたちの成長を三本木地域全体で支援する活動を行うとともに、学校と三本木地域をつなぐ体制整備を推進。
鹿島台家庭教育支援チーム「まあま」	中学生を対象とした「いのちを考える会」の実施や、保護者に寄り添う支援など、地域の家庭教育の普及を推進。
川渡地域づくり委員会	地域住民主体の景観保全活動を展開。湯沢川の桜並木を次世代へつなぐ活動を子どもたちと共に行い、地域への誇りと愛着の醸成に貢献。

市では、市民活動の普及と創意ある地域活動の促進を目的に、地域の活性化に先導的な役割を果たした個人や団体に「宝の都(くに)・活性化貢献賞」を贈呈しています。平成20年度から72組を顕彰し、1月5日に開催された第18回宝の都(くに)・活性化貢献賞贈呈式では、新たに5団体に同賞を贈呈し、その多なる功績をたたえました。



▲受賞した団体の代表者と伊藤市長(中央右)

「宝の都(くに)・活性化貢献賞」を贈呈しました